

2019 年度 第 5 回 研究会, 研究委員会の近況と活動日程

黒田恭司*₁ 岡田公治*₂

*₁ 日本アイ・ビー・エム *₂ 東京都市大学

5th Activity Report, October 2019: Committee of Study Groups

Kyoji Kuroda*₁ Koji Okada*₂

*₁ IBM Japan, Ltd. *₂ Tokyo City University

研究委員会では個別テーマ毎の研究会活動とトワイライトサロンや研究委員会フォーラム等のイベントを運営しています。2019 年 9 月 18 日現在の各研究会活動の活動状況や予定などを掲載しますので、ご興味のある研究会への参画を是非、お願いいたします。

1. 研究会の活動状況

細なことは機械的に決めてしまう、などの意見が交換されました。

(1) メンタルヘルス研究会

(主査：前田 英行 日立社会情報サービス)

月 1 回の定例会と年 1 回のワークショップを中心に活動中です。



定例会の様子 (9 月 17 日)

<直近の活動実績>

7 月 16 日：定例会開催 (4 名)

「決断疲れについて」(岡村良江)

メンタル疾患からの復帰事例を調べていて「決断疲れ」という言葉に出会い、最近自分も考え事が多く疲れ気味なので調べてみました。

「決断疲れ」とは「決断・判断する事で発生する自制心の疲労。」でした。筋肉を使えば疲れるように、決断することで心を働かせれば、その後の自制心に短期的な機能障害が起きる。そしてパフォーマンスやモチベーションが低下して精神的疲労が出てくるとのことでした。

発表後の話し合いでは、決断は 1 日の早いうちに行う、選択の幅を狭くする工夫をする、些

9 月 17 日：定例会開催 (8 名)

「産業医 500 人に聞いた従業員のメンタル不調の原因 TOP3」(中川正明, 前田英行)

Web で紹介されていた「産業医 500 人に聞いた従業員のメンタル不調の原因 TOP3」

(<https://dime.jp/genre/767627/>) に基づき、参加者で話し合いをしました。これは、「メンタル不調の原因」「メンタル不調の分かりやすいサイン」「休職後に復職の成否を分ける要因」等につき産業医の経験値をとりまとめた記事になっています。メンタル不調の原因の第一位は「職場(特に上司と)の人間関係」で、第三位は「パワーハラスメント」でした。

次に『心の保健体育』の観点から、メンタル不調の原因とされた上司の行動改善について話し合いをしました。上司は、部下の査定権と人事権をもっており、残業(時間)の決定権もあるが、ラインケアとして、部下の<時間・仕事・仲間>をマネジメントする義務がある。そうした中、部下の不安を継続させない上司(PM)の行動とは何かを話し合いました。

このテーマは、10 月 25 日に開催予定の「ワークショップ 2019 in 高松」でも取り上げる予定です。

<今後の活動予定>

10 月 15 日：定例会開催予定

10 月 25 日：ワークショップ 2019 in 高松

11 月 19 日：定例会開催予定

12 月 17 日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】 pmmh_all@googlegroups.com

(2) 人工知能（AI）と統計モデル研究会

（主査：梶山 昌之 ワイハット）

当研究会は人工知能（AI）と統計モデルをプロジェクトで活用するための研究を行います。現時点の学習・研究テーマとしては以下の5つになります。

- ① ディープラーニング研究
- ② AI プロジェクト研究
- ③ Python の学習と活用
- ④ 統計モデルによる分析と予測
- ⑤ R 言語の学習と活用

ディープラーニング研究では、8月までに「自然言語処理」の理論と実装の方法を学習しました。RNN（リカレントニューラルネットワーク）の手法を用いれば、時系列データを扱うことができるようになります。これにより、画像データの内容を説明するAIの構築が可能になりました。例えば、以下の写真をRNNによるイメージキャプションを行ったとします。



A group of people riding a motorcycle on a city street

これは、Microsoft がスマホのアプリで提供している Seeing AI による結果ですが、「街の通りでバイクに乗る人々のグループ」という説明が得られます。単に個々の物を認識するだけでなく、物と物の関係を反映した説明になっていることがわかります。

9月よりAIのライブラリーである TensorFlow の活用について、学習と研究を行います。この技術によりAIの実装が簡単になります。

AI プロジェクト研究では、AI 白書 2019 の内容から、AI 技術に関する国内の状況、および海外での取り組みについて学習しています。

AI 白書 2019 の発行の主要な目的の一つとして、「中国に大きく遅れを取っている状況を広く理解してもらう為」を掲げており、書籍 1/3 程度は、中国を注目とする内容となっています。

本研究会に参加するメンバーの興味は、人工知能の理論から、プロジェクト開発への応用まで様々です。そこで、複数の分科会による少人数での活動を行っています。

<直近の活動実績>

8月19日：ディープラーニング研究（5名）

8月22日：AI プロジェクト研究（6名）

<今後の活動予定>

9月25日：ディープラーニング研究

10月9日：定例会開催予定

11月12日：定例会開催予定

12月10日：定例会開催予定

定例会は2回/月（原則として第2火曜日と第4火曜日（18:30～20:30）に開催しています。ただし、毎回、発表者、参加予定者、会場の都合を反映して、開催日程を調整しますので、予定が変更になる場合があります。当研究会では参加者のスキルに合わせた運営を行っていますので、AI または統計が初めての方も気軽にご参加ください。

【詳細問合せ先】 kajiyama@yhat.co.jp

(3) フロネシス PM（知恵ある実践）研究会

（主査：中村 太一 国立情報学研究所）

フロネシス PM（知恵ある実践）研究会は、暫定的に隔月の例会開催となっています。

今年後半は、リーダーシップをテーマに“世界に通用する日本型プロジェクト・リーダーシップはあるのか？”をテーマにリーダーシップと文化について、隔月の第2木曜日に開催しています。

9月12日の例会では、メンバーの越後氏による「GAFA にみるアジャイルの強さとは～自立型チームのパフォーマンス～」と題した講演を受けて、日本におけるアジャイル開発について活発なディスカッションが持たれました。越後氏によると、GAFA の共通点の一つに、自立型チームによる高いパフォーマンスがあり、そのチームの特徴として、“明確な目標”、“平等である”、“オープンである”、“失敗を反省する” などがあります。GAFA にみるアジャイル開発や、その企業文化を紐解く

と、そのルーツに野中郁次郎や、トヨタのような日本の企業文化が垣間見えます。にも拘わらず、米国のアジャイルの普及率が 2017 年で 90%を超えているのに対して、日本は、40%弱であります。また IT 開発現場での自律型チームも育っていないように思われます。その理由と要因はなんなのかについて、メンバー間で盛んな議論が展開されました。

<今後の活動予定>

10 月 31 日：例会開催予定

「DX 時代のリーダーシップ」予定

【詳細問合せ先】pmsocietystudy@googlegroups.com

(4) リスク・マネジメント研究会

(主査：木野 泰伸 筑波大学)

本研究会では、プロジェクト・リスクに関する研究を行っています。昨年度は、若手 PM 向けリスク・マネジメント研修を開発・実施いたしました。今年度も引き続き、リスク・マネジメント研修についての検討を進めています。また、リスクの洗い出し方法についての検討を実施しています。

<今後の活動予定>

10 月 23 日：定例会開催予定

11 月 20 日：定例会開催予定

12 月 11 日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】pmsocietystudy@googlegroups.com

(5) ソーシャル・プロジェクトマネジメント研究会

(主査：河合 輝欣 ユー・エス・イー)

ソーシャル PM の体系化を目指して、社会の基盤情報システムとしての官公庁プロジェクト等に焦点を当てて研究会を行っています。

現在、当研究会では、社会インフラプロジェクトの事例研究として、総務省の「ICT 街づくり」や東日本大震災の復旧・復興の街づくりを研究テー

マとし、ICT プロジェクトマネジメントの視点から、知見・知識の集積を行い、知識や理論の体系化を試みています。

体系化の一環として、街づくりプロジェクトの導入・展開における基本的な考え方や留意事項を取りまとめたガイドラインを作成中です。

<今後の活動予定>

10 月 2 日：定例会開催予定

11 月末：定例会開催予定

【詳細問合せ先】yamamotot@nttdatacs.co.jp(山本)

(6) PM 人材育成研究会

(主査：黒木 弘司)

PM 人材育成研究会では、引き続きステークホルダーマネジメントについての議論を行っています。

8 月と 9 月の定例会は中止となりました。

<直近の活動実績>

8 月 7 日：定例会 (中止)

9 月 4 日：定例会 (中止)

<今後の活動予定>

10 月 2 日：定例会開催予定

11 月 6 日：定例会開催予定

12 月 4 日：定例会開催予定

【詳細問合せ先】pmcom2016@freeml.com

2. その他

活動中の研究会への参加希望や、新規研究会の提案に関する問合せは、下記までご連絡をお願いします。

【問合せ先】pmsocietystudy@googlegroups.com

研究委員会 委員長 黒田 恭司

研究委員会 副委員長 岡田 公治